

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

セイヨウミズユキノシタ

アカバナ科 *Ludwigia palustris*

原産地：アフリカ、ヨーロッパ、西アジア、アメリカ大陸が原産と考えられる。

特徴

水槽用の水草として流通する多年草。湖沼や水路などの水域から泥地や湿った林道などに生え、マット状に生育する。種子繁殖の他、千切れた断片からも生育する。

葉：葉は長さ 20mm～35mm、幅 10～20mm。水中か陸上かで葉の形態は大きく変化する。柄は短く、1カ所から2枚の葉が出る対生。

花：葉の根元に花を一つつける。花弁はなく、がくが4つに分かれる。

繁殖：奄美でも大量の種子が形成されているのが確認されているほか、千切れた断片による栄養繁殖によっても拡散している。



影響：マット状に生育し、在来植生と競合すると考えられる。特に渓流域の岩上に生育する希少種アマミスミレ（絶滅危惧 IA 類²⁾、アマミカタバミ（絶滅危惧 IA 類²⁾、ヒメサギゴケ（絶滅危惧 IB 類²⁾などの生育環境を脅かすことが懸念されている。

侵入状況：奄美大島各地で侵入が確認されている。山域では、島を縦断する奄美中央線で侵入が見られる他、住用川などの主要河川でも侵入が確認されている。

対策状況：住用川流域における駆除作業を実施予定。

防除のコツ：夏に開花・結実するため、それ以前の駆除が望ましい。千切れた茎の断片からも生育するため、丁寧な除去作業が求められる。駆除後も取り残しや土中に残った種子から発芽する可能性があるため、2、3ヶ月毎など定期的な駆除作業が必要。

²⁾ 環境省レッドリスト(2020)